

ここでみつけた! 弘前の中のフランス

フランスと関わりのある人たちを紹介していきます。

皆さんが見つけた、弘前にあるフランスに関わりあるものや人を教えてください。
メールアドレス: french@cc.hirosaki-u.ac.jp

リンゴ畑にたたく工房

きもり シードル工房 kimori

フランスといえば、ワインと考える人は多いと思いますが、リンゴからつくられる「シードル」も有名です。シードルは、主に、リンゴの生産地であるブルターニュ地方やノルマンディー地方でつくられています。弘前市は、2012年10月



にシードルの生産地の一つのカルヴァドス県ブーヴロン・アン・ノージュ村と技術協定を締結し、弘前市を「シードルの街」にしていこうという取り組みをはじめました。

▲kimoriでつくられたシードル

シードル工房kimoriを運営する株式会社「百姓堂本舗」も弘前でシードルを製造する企業の一つで、代表取締役の高橋さんも個人的に現地を訪問したとのこと。現地でのシードルづくりを見学したり、村で開催されていたシードル祭りに参加し、そこではシードルだけでなく、文化も大切にしていることに気付き、感銘を受けたそうです。シードルは、その風土から生まれたリンゴの文化の一部とも言えるでしょう。

シードル工房kimoriでは、シードルづくりに参入したい若手農家の人たちをサポートしようと考えているそうです。サポートというのは、若手農家の人たちにシードル工房のあるりんご公園に来てもらって、一緒にシードルづくりについて勉強していくというもの。こうしたシードル工房kimoriの働きかけによって、弘前が「シードルの街」に近づいていくのではないのでしょうか。

(Elise 鈴木)



▲リンゴの木とシードル工房

詳しい取材内容は、フランス語ホームページ「フランコフォニー広場」に掲載しています。興味のある方は、ぜひ気軽にアクセスしてみてください。

土手町の静かな雑貨屋

きゅうざぶろう 久三郎

週末の賑わいを見せる土手町の商店街を、一本横道に逸れた所にある小さな雑貨屋。ここは万年筆店・平山萬年堂のセレクトショップ『久三郎』。店内にはあらゆる文房具が隙間なく並んでいます。試し書き用の机があり、心行くまでお気に入りの一本を探すこともできます。昔、学校前にあった文具店のような雰囲気でお客さんがゆっくり品物を選ぶことのできる店をつくらうと開いたそう。

「フランスの文房具といえば?」と質問したところ、出てきたのはシーリングワックス(封蠟)。ヨーロッパで使われ始めたのは、その昔フランス人の船乗り、J.エルバンがインドから輸入したことがきっかけです。

ここ久三郎で、店主の平山幸一さんにお話を伺いました。フランスの文房具について日本とは違いがあるのかを尋ねてみると、「例えば日本のペンは、シャープペンの芯が回る、ボールペンだけど書いても消せる、など『書く』という機能を拡大する傾向にある。フランスのペンは、どちらかというと昔ながらの製品が長く愛用され、重要なのは『書く』ことであって、他の機能を付け足すことはあまりないですね」とのこと。モダンなデザインを取り入れるなど見た目を重視する面もあるそうです。変わり続ける日本の文具と長く愛用されるフランスの文具。文房具にもその国独特の雰囲気があります。

「変わっていく事も大事だけれど、日本の伝統的な所を見落とすのは勿体ない。文具だけでなく、日本の古いものを見直して取り入れていくのも必要ですね」

平山さんのおっしゃることは、このお店に反映されていると感じました。

(Oscar 宮脇)



▲フランスのBicボールペン



フランス語の看板を
見つけてみたよ!

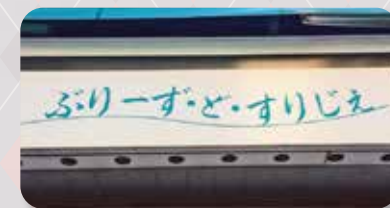


jardin : 庭
開店当初、庭のあるお店にしようとしていたため。



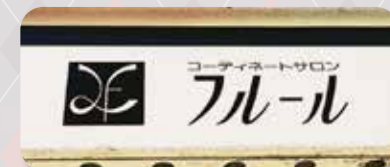
bonheur : 幸せ
買い物をして、買う方も売る方も幸せになりますように、という願いをこめて。

bourgeon : 新芽、つぼみ



brise de cerisier : 桜の風。弘前が桜のまちであることと、1階にある服飾店の「香風」にちなんで。

bien : 良い、美しい
数ある候補の中で、一番素敵な意味だったから採用。



fleur : 花

